

歯冠修復の目的は、咀嚼機能の回復と保全、審美性の回復のため、う蝕や外傷などで失われた歯質を人工材料で修復することにあります。う蝕治療における臼歯部咬合面での適応には賛否があるものの、金属を使わない歯冠修復である直接法によるコンポジットレジン充填は歯質との高い接着性、並びに審美面から信頼性が高く、直接法のメタルフリー修復として広く臨床応用されています。

一方、間接法では社会保険制度で認められている金銀パラジウム合金によるインレー、クラウン、ブリッジの修復、補綴が高い頻度で選択されています。国民の大多数がその恩恵に与っており、機能回復の面では金属による修復を否定することはできませんが、一方で金属を使用した歯冠修復には審美障害や金属アレルギーの問題があることも事実です。また、現時点でのレアメタルであるパラジウム・金などの価格の高騰、供給の問題など、将来大きな懸念となる可能性もあります。また、世界に類をみない超高齢社会となる日本において社会保障費の抑制も背景にあり、金銀パラジウム合金の代替材料が求められています。

その動きは既に始まっており、2012年11月に保険診療への導入を見据えた先進医療に「金属代替材料としてのグラスファイバー補強高強度コンポジットレジンブリッジの治療技術」が厚生労働省に承認されました。この技術は有機材料によるメタルフリー修復の一つです。すなわち、社会情勢からもメタルフリー修復の可能性を探る試みが始まっているのです。この技術は、有機材料の進歩と歯科接着の向上が根本にあるといえます。

高い審美性を有する歯冠色修復、つまりメタルフリーを求める患者の声は増加傾向にあります。また、新しいマテリアルや技術の開発・進歩により、インレー、アンレー、クラウン、ブリッジなど、さまざまなケースにおいてメタルフリー修復が可能となりました。“患者さんのための歯科医療”を追求すれば、「メタルフリー」は時代が求めているキーワードといえるでしょう。

本増刊号では、メタルフリーを実践しているエキスパートの執筆陣が、メタルフリー臨床を行ううえでの基礎知識、実践的な臨床例を解説しています。メタルフリーの意義を読者の先生方に再認識していただき、メタルフリーに基づいた歯科医療を実現するためのガイドとしていただければ幸いです。